

ホリホリの旅の絵日記

堀道広 文・絵
Hori Michihiko

Vol.012

おかげ横丁で赤福とお茶の後に
鳥羽の海や公園の異次元を



鳥羽市民の森公園にある異色の滑り台。
以前は目の部分から顔を出せてういがか、
現在はふさがっている。

赤福本店のお座敷で番茶付き
お粥しよがり盆。できたてが味わる。

「龍宮城」をイメージした外観の
遊覧船で伊勢志摩国立公園
の代表的な景勝地、鳥羽湾
をクルーズするのは、とても
シュールでおもしろい。

異界感がすごい。寄航して
イルカ島でイルカショーも見られる。
エンタメ度高すぎる…。

「連(せざなみ)」というお店で海老フライ定食
を食べたら海老が4尾入っていた。海老が
アジフライのように「開いて」揚げられていて
それも新鮮だった。

屋上には5メートルは
あろうかという乙姫像が。



ほりみちひろ ● 1975年、富山県生まれ。うるし漫画家。98年「月刊漫画カロ」でデビュー。漆職人の経験を生かし、金継ぎも手がける。最新刊は「おうちでできるおほか金継ぎ」(実業之日本社)。

旅は人生の縮図であり、ゲームや野球の試合のようなものでもある。と、大風呂敷な書き出しで始めてしまいましたが、今回まずやって来たのは伊勢神宮です。近くの「おかげ横丁」の赤福本店では、できたての赤福が二個お茶付き二百円で食べられます。

続いて訪れた鳥羽の定食屋で海老フライ定食を頼んだら、漁が不漁で小さい物しか獲れなかったからごめんね、と海老フライが四尾入っていました。海老フライ四尾で!!

鳥羽湾巡りの龍宮城仕様の遊覧船にも乗りました。巨大な乙姫、金色の浦島太郎、しゃちほこなどがあしらわれた遊覧船のインパクトは、異次元です。偶然見つけた鳥羽市民の森公園の、ガリバーの手の滑り台も異次元……いや、これ巨大造形物に強い同じ業者が請け負っていたりして? などと考えたりしました。

伊勢や鳥羽という土地の、レベルの高い「おもてなしの心」や「レジャー精神」は、どこから来るのでしょうか。やはり伊勢神宮という特別な場所が近いからでしょうか。冒頭、人生(旅)にはメインなどなく、全てにドラマがある、と言いたかったのです。